

事例 1

社会福祉法人清幸会特別養護老人ホーム なすの苑 (栃木県那須郡那須町)

施設で食物繊維加工食品を購入 便秘解消に加え食欲向上にも効果

2005年に開設された社会福祉法人清幸会特別養護老人ホームなすの苑は、さまざまな方法で排便コントロールに取り組んできたものの、思うような成果が出なかった。だが、ファイプロ製薬株式会社の「イサゴール[®]」との出会いにより、同施設の排泄状況は改善した。

効果的な商品を探すため 展示会に足を運ぶ

那須連峰を背に、豊かな自然に囲まれた社会福祉法人清幸会特別養護老人ホームなすの苑は60床(そのうちショートステイ10床)で、寝たきりの入居者も多く平均要介護度は3・9だ。

同施設が排便コントロールに取り組み始めたきっかけは、5年ほど前に聞いた国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授の講演だ。

「講演を聞いた管理栄養士(現在、施設介護課統括リーダー野澤課長)から排便コントロールを行ない、入所者さんの自立支援につなげたいという声がありました」と、池田香織施設長は振り返る。

そこで食物繊維やオリゴ糖を摂取するといった取り組みに着手したが、なかなか目立った効果が表れなかった。

良い方法を探すため、昨年1月に東京ビッグサイトで開催された「メデイケアフーズ展」に参加。そこで出会ったのが、ファイプロ製薬株式会社の「イサゴール[®]」だ。これは、インド産のオオバコの種革「サイリウム」を主成分とした食物繊維加工食品で、「特定保健用食品ゼリージュースイサゴール[®](アセロラ味)」「とろっと快朝イサゴール[®](ピーチ味)」がラインアップされている。

同施設では、便秘対策にかかる費用は管理栄養士が所属する給食管理係の予算に組み込んでいる。それを使って、経口摂取ができる入居者数人に「とろっと快朝イサゴール[®](ピーチ味)」を摂取してもらうことになった。そしておむつ替えの際に介護職が便の状態を確認した。

肌荒れの改善や不穏状態の解消 さまざまな効果が生まれる

早い人では数日で効果が出始め、導入から2カ月後には摂取した入所者のほとんどの排便状況が改善したという。便のキレがよくなり、排泄時に苦



入居者の排便コントロールに取り組む特別養護老人ホームなすの苑



池田香織施設長(左)と管理栄養士の薄井尚子係長



左から、とろっと快朝イサゴール®(ピーチ味)、特定保健用食品ゼリージュースイサゴール®(アセロラ味)

痛がなくなつた入所者もいれば、下剤から「イサゴール®」に切り替えたことで不穏状態が解消した入所者もいたという。

もちろん、人によっては効果がすぐに出ないこともあり、下剤と併用するケースもあった。それでも、下剤を使用した後の便性が変化したそう。

管理栄養士の薄井尚子係長は、「下剤を服用している場合、水様便になりやすく、おむつの中で広がって肌に付着することもありました。『イサゴール®』を飲むことで、便がまとまり、肌に付着せず、肌荒れが改善する人もいたのです」と、その効果を強調する。

食欲の面でも、便秘でお腹が張り、食事が食べられなかった入所者が、「イサゴール®」により便秘が解消され、なおかつ排泄時に爽快感を得られることで、食欲が湧くこともあるそうだ。

今では対象者を増やし、入所者の4割が使用。「スタッフからは『イサゴール®』を使って良かったという声寄せられています」と、薄井係長はほほ笑む。

同施設では、新たに入所者に便秘などの症状が見られる場合は、各ユニット職員、看護職員

やケアマネジャー、管理栄養士などが参加して月に1回行なわれるユニット会議で「イサゴール®」の使用を提案し、多職種で検討する。そこで使用が決まったら、ユニットごとに介護職が準備して提供する。飲むタイミングや量は、介護職の判断に任せ、入居者の体調や体格などに合わせて変えている。

そのため、朝と昼の2回摂取する人もいれば、朝のみの人もいる。最も多いのは、「とろっと快朝イサゴール®(ピーチ味)」をゼリー状にし、食事の際にデザート感覚で食べる方法だ。ピーチ味なので食べやすく、好んで口にする人も多いという。

さらに管理栄養士が施設内を周って入所者の様子を把握し、摂取方法の改善を提案することもある。

これまでの成果を踏まえ おむつ外しをめざす

同施設が購入費用を負担していることについて、池田施設長はこう話す。「国の方針を見ても、特養には中重度の方を受け入れ、排便コントロールなど自立支援をして地域に返していく役割が求められています。ですから、排便コントロールも、特養がすべき自立支援の一環だと考えています」

同法人は特養のほかに、グループホームや小規模多機能、デイサービスなどさまざまなサービスを展開しているので、特養で介護度を下げ、ほかの

サービスにつなげていくことも考えている。また、コスト面について、薄井係長は、現在は予算のなかから「イサゴール®」や食物繊維、オリゴ糖などを購入していますが、水分摂取量が増え、「イサゴール®」の使用が軌道に乗れば、ほかの食物繊維やオリゴ糖などを購入する必要がなくなるので、予算面では余裕が生まれるのではないかと思います」と話す。

また入所者の家族からも好評だ。サービス担当者会議で施設の計画書や栄養関係の計画書を入所者の家族に説明し、同意を得ているのだが、「イサゴール®」の提供により便秘が改善されているという話をすると、家族が喜ぶという。特に、なるべく薬は使いたくないと考えている家族からは、お礼を言われることもある。

現在の課題は、胃ろうの人への使用だ。今は経口摂取の人のみに使用しているが、現場のスタッフからは「胃ろうの人にも使いたい」という声があがっている。

「看護職も『イサゴール®』の効果を実感しているのですが、使用については現在は検討しているところです」(薄井係長)

池田施設長は今後の抱負として、「おむつ外しは私にとって長年の夢でした。排便コントロールの成果を踏まえ、今後はおむつ外しを実現したいと思えます」と力強く語る。